



3

Toyo Kaneshige
and
Handeishi Kawakita

川喜田半泥子
— その作品と交流 —



4



1

備前焼
人間国宝

金重陶陽と



2

企画展

2012
9.28[金]—11.25[日]

◆開館時間/10時~17時(入館は16時30分まで) ◆休館日/月曜(祝日の場合は翌日)
◆入館料/一般500円[400円]学生300円(高校生以上) ※[]内は20名様以上の団体料金

同時開催 第2展示室

所蔵品展

川喜田半泥子とその周辺 — 半泥子の茶陶 —

公益財団法人
石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18
【TEL】 059-227-5677 【FAX】 059-213-5789
<http://www.sekisui-museum.or.jp/>



企画展 備前焼人間国宝 金重陶陽と川喜田半泥子 —その作品と交流—

金重陶陽(1896~1967)は、備前窯元六姓のひとつ金重家の長男として現在の備前市伊部に生まれ、デコ師(細工人)として高い評価を得たのち、桃山陶芸の研究を重ねて茶陶への転換をはかりました。「備前焼中興の祖」と言われ、昭和31年(1956)には、備前焼初の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。また、備前焼の個人作家として新たな地位を築いたさきがけでもあることから、「現代備前のバイオニア」とも称されています。

当館の創設者川喜田半泥子(1878~1963)と金重陶陽とは、美濃の荒川豊藏、萩の三輪休和との4人で作陶連盟「からひね会」を結成するほか、お互いの窯を訪ねて作陶するなど、頻りに交流していました。

本展では、陶陽の代表作により、その作品の変遷と偉業を紹介するとともに、陶陽と半泥子の合作、陶陽に贈られた半泥子作品、半泥子が愛用していた陶陽作品ほか、2人の交流を物語る書簡や文献資料も展示いたします。

(表)

1. 備前緋襷透手焙 金重陶陽作 個人蔵
2. 備前砧形花生 金重陶陽作 京都国立近代美術館蔵
3. 備前馬置物 金重陶陽作 個人蔵
4. 備前耳付水指 金重陶陽作 個人蔵
5. 備前三角花器 金重陶陽作 個人蔵
6. 彩色備前閑古鳥香爐 金重陶陽作 倉敷市立美術館蔵
7. 備前我庵写花入 金重陶陽作 武者小路千家蔵
8. 備前三角播座花入 金重陶陽作 岡山県立美術館蔵
9. 備前沓茶盃 銘「さざれ石」 金重陶陽作 個人蔵
10. 備前半月鉢 金重陶陽作 個人蔵
11. 備前肩衝茶入 銘「秋ノ山」 金重陶陽作 個人蔵
12. 伊部の印象図 川喜田半泥子筆 個人蔵

撮影(1,3~5,8~11):黒原三郎

記念講演会

交遊が作陶に与える影響について —陶陽と半泥子の場合—

- 講 師: 上西節雄氏(吉兆庵美術館顧問)
- 日 時: 10月13日(土)14時~15時30分
- 場 所: 津商工会館丸之内ホール(津市丸之内29-14)
※電話にて石水博物館までお申し込みください。
(TEL.059-227-5677・申し込み先着80名様)

次回展覧会

■ 会 期: 11月30日(金)~平成25年2月3日(日)

石水所蔵名品展

—新三重県指定文化財 古伊賀水指 銘「鬼の首」を中心に—

展示替え休館

11月26日(月)~11月29日(木)

交通アクセス

- JR・近鉄津駅より三重交通バス(久居駅方面行)にて15分、「青谷口」下車徒歩8分
- JR阿漕駅より徒歩12分
- お車をご利用の方

【津市街から】国道23号線「大倉」交差点を県道776号線(久居方面)へ。JRの踏切を越え、約200m先岩田池手前の細い道(緑の看板あり)を左折。約300m先左側。(駐車場 15台)

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18
【TEL】059-227-5677 【FAX】059-213-5789
<http://www.sekisui-museum.or.jp/>

